

# 衆議院議員 池田元久の活動報告

ACTION report

AUTUMN 2004

## 池田代議士、国会対策 総括筆頭副委員長に就任



10月12日、臨時国会が召集されました。7月の参議院選挙で自民党を一議席上回り躍進した民主党は、9月に党大会を開き、岡田克也代表を選出し新しい体制でこの臨時国会に臨んでいます。

池田代議士は、ことし初めまで衆議院の外務委員長を務めたあと、予算委員会、イラク支援特別委員会などで活動していましたが、秋の臨時国会から民主党の国会での戦略本部とも言うべき国会対策委員会の総括筆頭副委員長に就任しました。

日本歯科医師政治連盟による自民党旧橋本派への1億円ヤミ献金問題をはじめとして、政治と金を巡るさまざまな問題が明らかになり、臨時国会の焦点も政治資金の透明化の問題などに絞られてきました。「政策」から「国会対策一政局」へ池田代議士の手腕が問われています。

## 「政冷経熱」の中国を訪問し、活発に議員外交



羅幹中央政治局常務委員と会談  
(人民大会堂で)

9月下旬、池田代議士は江沢民前主席が引退して胡錦濤新体制となった中国を訪問し、中国政府要人や党幹部などと積極的に会談しました。

現在の日中関係は、「政冷経熱」といわれます。小泉総理の靖国神社参拝問題に起因して首脳会談もできないほど政治は冷え切っている反面、中国経済の発展に伴い日本との貿易や投資が盛んとなり、日本経済にとって中国は大きなウェイト（輸入1位・輸出2位）を占める存在になりました。

アジアの安定と発展のためには、日本と中国がお互いをパートナーとして理解し合うことが大切で、意見の違いはあっても相互の人的な交流を重ねて信頼関係を深めることが重要です。

池田代議士は民主党の「日中21世紀の会」の中心メンバーとして、北京では中国共産党幹部と会談し、北朝鮮問題を含めた安全保障はもちろんのこと、経済や環境などさまざまな問題について率直に意見交換を行いました。また、目覚ましい発展を続ける中国最大の都市上海の情勢を視察しました。